

(公財)伊藤青少年育成奨学会  
奨学生選考課題図書

「森林の崩壊」 白井裕子著 新潮新書

近年、気になっていることがあります。奨学金志望者の課題図書に対する姿勢です。

当財団が求めていることは、課題図書を読むことです。活字を嘔み碎いて、格闘することです。小論文を書くということは読書の結果の報告をしてくださいということです。

「森林の崩壊」というタイトルに対して、本書に関係のないあなたの「自説」を、小論文に書いてくださいと言っているわけではありません。

タイトルと、プロローグ(はじめに)とエピローグ(最後に)を読んで、総論を書いているように思われる小論文があります。また、ざっとななめ読みして大意を推察し、ありがちな通説を開陳する小論文もあります。

受験のための読書法は素早く大意を把握し、作者は何を言いたいのか、という設問に答えることではなかったかと思います。しかし何度もくりかえしますが、当財団が求めているのは、課題図書を読むことです。

詩、小説に「神は細部に宿る」という言葉があります。細部まで手抜きなく丁寧に書くという解説になっていますが、作者の意図しない細部にこそ作者の本質が現れるという意味ではないかと思っています。

当財団は、《あなたに小論文を書かせた一行は何か》ということを知りたいと思っています。その一文一行から想起される、あなたの喜怒哀楽を書いてほしいのです。世の中に流布しているような総論を読みたいのではありません。したがってインターネットで検索した情報は不要です。

本書のなかには偶然ですが、岐阜県が日本の森林との共生、荒廃などの縮図として取り上げられています。自分自身にかかわる問題として考えるのに適した著書であると思います。